

北米宣教師リサーチ報告

■浅野直子

(TLCCCニューヨーク教会)

トランプ政権以降の変化について、アメリカにいて見聞きして感じたことをお分かちしたいと思います。

2016年の大統領選では、共和党候補のトランプ氏と民主党候補のクリントン氏の間での戦いの中、過激な発言が相次ぎ、大統領選が終わった後、この国の分裂に癒しが必要であると、叫ばれてきました。実際、大統領選キャンペーン中に、ヘイトクライム(人種、宗教による差別等の偏見による犯罪)が20%以上増えたと言われ、いまだ続いています。

イスラム教徒の人たちが、暴力を振るわれたり、イスラム教徒の人、またメキシコ系の人が「自国に帰れ。」となじられたりしているのをニュースで聞きました。

また、ニューヨークでは、反ユダヤ主義の犯罪が、この1月~3月に55件と、2016年の同じ時期に比べると189%に増えたそうです。全国各地にあるユダヤ人コミュニティーセンターに爆破予告が出され、幸いにも、いたずらで終わりましたが、ニュージャージーでも、シナゴグが焼かれたり、正統派ユダヤ系の方々が多いコミュニティーのある町では、ユダヤ系の墓石が倒されたり、公共の場所に反ユダヤ主義の落書きが描かれたりしました。

テロに関しては、5月の頭に、テレビのニュースで、この夏、アメリカ人は、ヨーロッパへの旅行を警戒するようにとの報道が流されました。これは国務省が発令したもので、モール、政府機関、ホテル、クラブ、レストラン、礼拝堂、公園、空港などがすべて攻撃対象になるという警報でした。

最近では、大きなイベントを狙ったテロだけでなく、ISISの扇動により、個人で動くテロリストが出てきています。ニューヨーク・シティーのウェブサイトの、テロ・危険対策のページでは、人の集まる場所を避けるよう、テロに遭遇してしまった場合の対応が書かれていて、個人個人が自分の身をどう守るかという情報を出しています。

自宅の近所の小さな郵便局にも、銃乱射犯人が侵入してきた場合の対応のサインが、窓口の側に貼りだしてあったのには、驚きました。

先日、六日戦争、50周年目を記念して、「我らの手にエルサレムの戦い」というドキュメンタリー映画が、CBN(クリスチャン放送ネットワーク)によって、一晩だけ限定された映画館で上映されるということがありました。ほとんどの映画館でチケットが売り切れとなり、好評のため、再上映となり、私たちも映画を観に行ってきました。ニュージャージーのクリフトンという町にある小さな映画館でしたが、観客にあまりにユダヤ系の人たちが大勢いて、私たちは互いにそれぞれに、反ユダヤ主義の人が、銃乱射するような犯人が突入してきたらとか、テロの爆破が起こったらどうしよう、と映画の途中で思わせられるような雰囲気がありました。

テロからの守りの祈りを落とさないようにしなければと思われました。ヘイトクライムにおいては、聖書に終わりの時、「民族は民族に、国は国に敵対し、」と書いてあり、ヘイトクライムは、ある意味、分裂し、敵対する傾向の表れのように感じています。

正しい情報を得て、ポイントの祈りをとらえて祈り備え、終わりの時代の宣教の働きを進められるようにと願います。アメリカでも迫害が起こってくるというのは、目前に迫っているように思います。

■上館 千恵子(TLCCCバトンルーージュ教会/デンバー教会牧師)

現在のアメリカの状況をお分かちしたいと思います。

私が以前住んでいたコロラド州デンバーはとてもしベラルな所でしたが、現在住んでいるルイジアナ州バトンルーージュは非常に保守的な所です。それも熱狂的な大統領支持者が多いです。

また、いろんな方々から聞いたり、ニュースなどで耳にしたりするのですが、大統領について、「何をするのか予測がつかない」と言われているようです。

「アメリカ第一」を掲げ、自国の利益を第一にする政策により、アメリカが孤立してきています。ヨーロッパなどは、アメリカをあてにしないで、自分たちでどんどん進んでいこうとしています。世界における影響力が低下しているのがわかります。

世界秩序が変わりつつあり、ヨーロッパが世界の中心になるのが少しずつ近づいてきていると感じます。

大統領は親イスラエルで、中絶反対で、同性婚に積極的でなく、聖書的です。しかし、イスラム圏からの入国を制限したりなど強硬策から、反感を買って、それがクリスチャン迫害などにつながっていくのではとの見方もあるようです。

テロに関しても、いつ、どこで起きてもおかしくないと思います。祈りが必要です。

黙示録の時代が近づいていると思わされることが多くなったと感じる日々です。